

## 「親子で学ぶ SDGs 教室」の実践活動報告

NPO 法人民族フォーラム理事 **皮籠石 成久**



### 1 はじめに

私の所属する NPO 法人民族フォーラムは、さいたま市都市戦略本部が一般公募した「CS・SDGs パートナーズ」に応募し、対象事業者として認定された。国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」『誰一人取り残さない』という理念を基に、それを具現化し市民レベルで生活改善を考えていく「親子で学ぶ SDGs 教室」を下記のように実施した。

### 2 内容

(1) 参加者：小学校児童と保護者 7 組  
関係者 13 名 (合計 27 名)

(2) 日 程：2021 年 11 月 27 日 (土)  
13:00~15:40

(3) 会 場：コーププラザ浦和 (南浦和)

(4) 内 容 **司会進行 皮籠石 成久**  
**《知識を広げる学習》前半**

**13:00~14:30**

**ファシリテーター、参加者自己紹介**

- ①自己紹介カードを基に参加者の発表
- ②「SDGs って何」のパワーポイント、「プラごみの写真パネル」等 (10分)
- ③SDGs の取り組みを紹介 (15分)  
「さいたま市内、埼玉県内の小学校の実践事例」をパワーポイントで紹介
- ④プラごみ削減に向けての子供座談会  
・グループ毎に話し合いをする。保護者の方の意見も取り上げる。

※学生ボランティアが各グループに入り司会・進行を行う。

**【子供座談会からの意見は以下の通り】**

#### テーマ①

【SDGs 目標 11 住み続けられるまちづくりをするにはどのような方法があるか。】

- ・おはよう活動 (駅前清掃活動) を通してゴミのないまちづくりをする。
- ・ごみの行方など、まわりの人にポスターなどで知らせる。
- ・もう少しゴミ箱をふやす。
- ・中国籍やフィリピン籍の人達と仲良く生活する。当たり前前に接する。
- ・リサイクルしていく。無駄遣いしない。
- ・マンションのゴミ分別をよく守る。
- ・プラごみになるような物を使わない。最小限に使う。
- ・自分で出したゴミは持ち帰る。
- ・ポイ捨てしない。

#### テーマ②

【SDGs 目標 14、15 海の豊かさや陸の豊かさを守るために自分たちにできる事は何か。】

- ・海の貝などで額縁をつくる。
- ・貝やペットボトルを細かくして道路舗装に使う。
- ・食品ロスをクラスの問題として取り上げる。(給食を残す実態→クラスで話し合い⇒一人一人の問題解決につなげる)
- ◎マナーを守ること。ポイ捨てしないなどの意識を高める。(ポスターで表示)



各グループ毎の発表

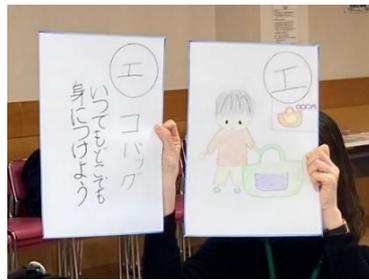
## 《体験学習と学んだ事の振り返り》後半

14:30~15:40

## ①SDGs カルタ又は標語の作成と発表

(40分)

- ・マジック等を使いカルタや標語の作成
- ※学生ボランティアや参加者がアドバイスや支援を行う。
- ・作品を発表し、情報を共有する



SDGs カルタの作品

## カルタと標語の作成



参会者全員の集合写真

- ②SDGs の学習を通しての振り返り (9年後の自分の姿等、親子による個人発表)
- ③今回の学習の振り返り (主催者側から)  
JICA 東京埼玉デスク 矢田部 建佑  
民族フォーラム理事 皮籠石 成久
- ・身近な生活の中で SDGs を意識した親子の共通課題と共通目標の洗い出しと設定をどのように行っていくか (2030年までの将来設計)
- ④まとめ (10分)

埼玉 NGO ネットワーク代表 赤石 和則

- ◎今日の「教室」を通して、SDGs の意味をしっかりと考えてみよう
- ・金子みすゞの詩から SDGs を
- ・少数者への配慮など多様性の尊重を

## 「親子で学ぶ SDGs 教室」参加保護者からの感想

事前に皮籠石さんが、わざわざ我が英語教室まで出向いて「出前教室」を実施してくださったり、みんなが遅れて到着するのを待っていてくださったり・・・私の小さな生徒たちとお母さん達にとっては、結果的に思いもよらない素敵なプレゼントになったみたいです。矢田部さんのお話もとてもお上手で、子ども達には理解しやすく全部聴けて本当に良かったです。カルタ作りも成功でしたね。子ども達にとって大変かなと思っていたのですが、逆にとても楽しんだみたいです。また、ボランティアの大学生の皆さんが揃って質の高い素晴らしい青年男女だったので、9年後の子ども達の目指すモデルとなったのではないかと、私も大変感動しました。今回の勉強会をきっかけに、子ども達にも難しすぎるかなと遠慮せず社会や世界の問題 SDGs のこと等どんどん話していこうかなと思えるようになりました。(英語教室講師)

こんばんは。今日は、有意義な時間をありがとうございました。色々と考えさせられる時間でした。私が子どもだった頃と(3,40年前になってしまいましたが)、環境問題や、飢餓、紛争など同じような問題が続いていることを改めて感じました。子どもにとっては、魚がプラスチックまみれの海にいる事など 衝撃的な内容だったようです。ただ、私が子どもの頃より今の子ども達の方が意識が高く色々と感じました。またボランティアの大学生の方の意識も高く、子ども達も楽しそうに感心いたしました。(保護者A)

今日は、とてもタメになるお話でした。小4には難しかったかもしれませんが、それらの知識を得る事に早すぎる事はないと思いましたので、今回は楽しく地球環境などを考え、教える良い機会になりました。また、まだ小4ですが娘は大人びた考えをすることがあるので、今日の講座はとても興味深かったみたいです。親子で、「これから身近で出来る事を積み重ねていきたいね」と話し合いました。(保護者B)

## 3 おわりに

今回の「親子で学ぶ SDGs 教室」については、日程や募集の仕方などの反省点はあるが、市民レベルで親子が共通課題をもち SDGs な生活に変換する意味では大きな意義があった。